

## 第29回病診連携委員会要録

日 時 平成24年2月27日（月） 午後7時30分  
場 所 浪速区医師会 会議室  
出席者 浪速区医師会 : 7名  
南 医 師 会 : 1名  
愛 染 橋 病 院 : 1名  
大野記念病院 : 3名  
四天王寺病院 : 1名  
多根総合病院 : 1名  
富 永 病 院 : 2名  
浪速生野病院 : 2名  
山本第三病院 : 1名  
大和中央病院 : 2名  
スワンなにわ : 1名  
訪問介護こころ : 1名  
住友セメントシステム開発(株) : 1名  
ブルーカード事務局準備室 : 1名  
浪速区医師会事務局 : 1名

### 議 題

#### 1. 第28回病診連携委員会報告について

前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。

#### 2. ブルーカード事例検討等連携病院からの報告について（大野記念病院）

今回の担当の大野記念病院より対応に苦慮した登録患者の紹介があった。

1例目は、てんかん発作を有する在宅患者で、大野記念病院では、てんかん発作が中心の受診依頼の場合は対応できない。そこで登録医に連絡をとって、てんかん発作が出ている場合は救急車を呼んでいただき、それ以外は大野記念病院に連絡してもらうことで了承してもらった症例である。2例目は、高齢者マンションに住む他院で人工透析を受けている患者のブルーカード登録である。透析患者も対応できる大野記念病院の特性と役割を考え、まずは普段透析を受けている病院へ連絡してもらい、そこで対応が困難な場合に受け入れるという条件で、登録医に了承してもらった症例である。連携病院としては、登録希望があればできる限り受け入れるというスタンスを持っているものの、てんかんや人工透析などのような特殊な病態でいつもかかっている病院がある場合は、まずはそちらへ連絡してもらってから対応でよいことが確認された。またイレギュラーなケースの登録依頼があった場合は、その登録を拒否してよいことも確認された。登録医に向けて改めて「連携病院はあらゆるケースの登録を了承するのではなく、受け入れが困難で拒否するケースもある」ことを再確認することとなった。

#### 3. 病診連携委員会のアンケート結果について

##### (1) 今後の委員会での議題や意見交換の方法について

議長より今後色々な議題を提起するための方法として、委員や病院からのゲストの紹介、問題事例の検討などを持ち回りで行ってはどうかとの提案があり、今回がその第1回目となった。その方法論として担当となった委員や

病院が独自にアンケートを作成して委員全体の考えを集約すると合理的に話が進むのではないかとの意見があった。また、持ち回りではなく、随時にこれらを行えばよいのではないかとの意見もあった。当面は、議長の提案による方法を実践していくこととなった。その他の意見として、ブルーカードに参加する病院や診療所が増えてきたので、それぞれの具体的な診療情報を改めて周知してはどうかとの提案があり、再度調査し直して医師会のホームページにアップすることとなった。

#### (2) 病診連携委員会での連携パスの利用について

既存のパスがある疾患もあり、この委員会で連携病院間のパスを標準化するための議論をする必要があることとホームページにアップするだけでは利用できないのでその利用方法を煮詰める必要があるとの意見があった。浪速区以外のパスとの関連を考慮するとかなり難しいのではないかとの意見もあったが医療連携については、ブルーカードとは別の医療連携として、とりあえず浪速区内で使用する連携パスを構築していく議論を行うことが確認された。

#### 4. 介護とブルーカードの関連について

今回参加の介護事業所であるスワンなにわより、どの利用者がブルーカードを有しているのかを知る方法を考えてほしいとの要望があった。ヘルパーが入っている利用者についてはブルーカードを持っていることを把握できるが、デイサービスのみを利用している場合はブルーカードを持っているか把握できないとのことであった。日中なら、体調に変化があれば、ブルーカードの有無に関係なく主治医に連絡すればよい。そして、夜間休日の対応としてブルーカード登録されている場合は、デイサービスの連絡手帳に登録者であることを記入したり、登録がわかる携帯カードを作成するなどの周知方法を今後検討することとなった。

また、ブルーカードの緊急連絡先に介護事業所が指定されている場合にはどのように対応すればよいのかとの質問があった。ブルーカードには24時間連絡がつく連絡先を記入することとなっているが、身寄りのない人の場合は、少しでも情報を多く入手できるように介護事業所が連絡先となっている場合がある。基本的には主治医から介護事業所の方へ緊急連絡先として登録することを伝えることとなっているので、登録確認があれば、緊急連絡先として可能な時間帯で情報提供の協力をお願いしたいと依頼した。

訪問介護ところからは、ブルーカードを持っている利用者とその家族、そしてスタッフから安心できるシステムなのでもっと広げてほしいとの応援の声があるとの話をもらった。

#### 5. ブルーカードシステム利用料等の請求方法について

事務局より、これまで4か月ごとに徴収していたブルーカードシステム利用料を、手間や振込手数料がかかることを考え、1年ごとの徴収方法を増やしてはどうかとの提案があった。そして3月に事務局より4か月ごとの徴収か1年ごとの徴収かどちらかの方法を選択できるよう調査アンケートを送るので考えておいてほしいと説明があった。

#### 6. syncnelのバージョンアップの内容について

住友セメントシステム開発の好村 悟氏からsyncnelのバージョンアップに伴う内容の変更点が説明された。

そして、現時点ではPCで検査結果などのデータをアップしている状況だが、間もなくiPadから直接アップできるようになるとのことであった。

また現在、iPadでのsyncnelの利用料が10ユーザーまでで設定されている。今後

のユーザー数の増加につれての料金設定を確認したところ、5ユーザーごとに料金設定することができるとのことであった。

## 7. その他

### (1) 大野記念病院からの案内について

土曜日の外来に骨粗鬆症外来が新設され、大阪市立大学医学部付属病院リウマチ科の医師が診療をするので利用してほしいとの案内があった。

### (2) 育和会記念病院の連携病院参加について

育和会記念病院より連携病院として参加することを前向きに検討したいとの意向をいただいたのでブルーカードシステムの説明に行くこととなった。

### (3) 現時点でのブルーカード登録件数について

登録件数は、浪速区271件、他地区29件の合計300件。

使用状況は、浪速区158件、他地区3件。

2月の稼働件数は、17件。

次回会議予定 平成24年3月26日（月）午後7時30分～